

船橋市立海神南小学校

1 学校の紹介

本校の児童数は562名、18学級で構成されており、創立から39年目の小学校である。船橋市の南部に位置し、周囲を京葉道路・国道14号線・JR総武線・JR京葉線などに囲まれた、南北500m、東西2kmの細長い形状をした学区となっている。また、西船橋駅に近接し、多くの人々が行き交う活気あふれた街である。学区内には多くのマンションが建ち並び、児童の8割はそれらのマンションに居住している。

学校の教育目標は「健康で知性と徳性を備え、考え深く行動し、新しい時代を生きる子どもの育成」である。平成19年～21年に船橋市教育委員会の研究指定を受け、現在も研究教科を「国語科」として取り組んでおり、「並行読書」という形での読書活動に積極的に取り組んでいる。平成25年度には「全国小学校国語科教育研究大会」の会場として、「言語活動を通して確かな力を育む国語科学習」の主題のもとに公開研究会を行った。また、「国語科の言語活動」に関しては年々新しい試みを加えながらも、児童による影響を与えると判断した取り組みを引き継いで行っている。その一部を以下で紹介する。

(1) 詩歌ブック

入学時に全児童に配布される。1級から20級まで、漢文や古典、現代の詩まで幅広い詩歌が40種類以上掲載されている。活用方法は、言の葉タイム（朝読書時間）や音読の宿題など。



(2) 詩歌発表

毎月の全校朝会の中で、担当学年が詩歌の発表を行う。基本は詩歌を暗唱する。詩歌にあった身振り手振りをつけながら行うなどの工夫が施される。

(3) 百人一首大会

毎年2月3日に、3年生以上・各学級4人の代表選手が勝敗を競う大会。大会に向け、12月下旬から各学年に百人一首セットが配布され、各担任が指導を行う。



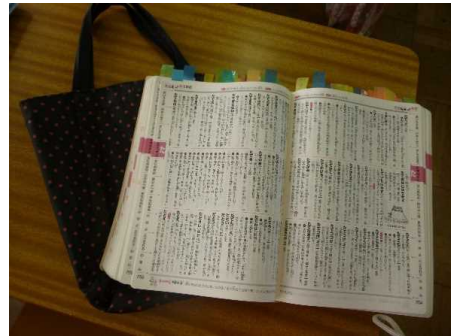
(4) 短歌コンクール

四季に合わせたテーマの下、短歌のコンクールを年5回で行う。児童から募集した短歌を校長が選出し、受賞者を決め、作品は昇降口に掲示される。低学年は俳句での参加も可としている。また、学年によっては、行事毎に行事に因んだけ

ーマで作成し、廊下に掲示する。

(5) 国語辞書の携帯

1年生から、机の横に辞書を携帯するという環境作りを行っている。全ての文字にルビが振られている辞書を紹介することで、低学年でも有効活用することができている。また、調べた箇所に付箋を貼るよう指導を行い、学習活動の中で調べることを日常的に行わせている。



(6) 学校図書館・国語の学習コーナー

『詩・古典・ことわざ』は分類番号で分けて置かず、オレンジシールを貼り、国語授業専用の本棚を特別に作ることで、学習しやすいように配慮している。

→学校図書館入り口すぐ
に配置しているため、目
に入りやすい。



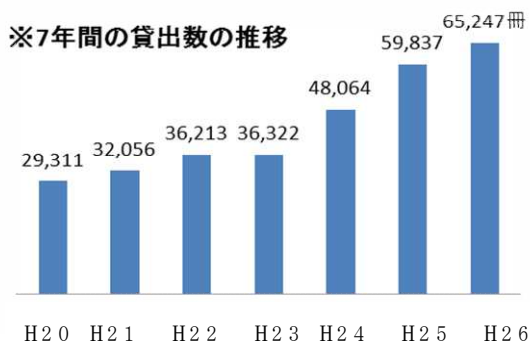
(7) 季節の掲示板

校舎外の掲示板上に、教員と掲示委員会の児童が協力して掲示物を作成する。

これらの活動の他にも、学年や学級の実態に合わせて「ビブリオバトル」に取り組んだり、「日記短歌」に取り組んだり、全校で一丸となって意欲的な言語活動を行っている。

今年度の読書活動の目標は「児童が意欲的に読書を楽しんだり、目的に応じて選書したりするための環境づくりを行う。」「日常的に読書に親しみ、学校全体で読書コミュニティを育めるような取り組みを行う。」である。そのため、学級担任は朝学習の時間や授業時間で読書活動に取り組んだり、図書委員会の児童が主体となって読書活動の推進を行ったりしていく。

また、本校は「千葉県優良学校図書館」に指定されており、市内でも学校図書館の活動が活発な学校として認定されている。貸し出し冊数で言うと、前年度(H26)の一人当たりの貸出冊数が115.1冊と、船橋市の平均貸出冊数82.1冊を大きく上回った結果を出しており、年々貸出冊数が向上している。そのため、今年度も貸出冊数をより向上することを目標としている。加えて、借りる本の質の向上も、今年度のねらいとして取り組む。



2 自校の図書館の現状

自校図書館の現在蔵書数は、11,000冊以上で、保有数は110%近くあり、人数に応じての本の保有は充分であると思う。9類（絵本を含む）が半数を占めているが、個人的に読みたい本が自校にない場合は、市内の小中学校へ貸出依頼をして補う図書物流の活用を行っている。



本校の学校図書館の様子

↑右カウンター前。奥には裸足で上がる絵本スペースがある。

↑中央 出入口付近からの様子。

↑右 カウンター前からの様子。大きな机は7台設置しており、8班での班活動時には絵本スペースの丸机を活用している。

3 司書教諭および図書主任等の教員の取組

(1) 校内組織と主な役割

司書教諭および図書主任の教員は、校内の研究推進委員に所属し、「読書活動部会」の主任として、学校図書館を活用した授業作りや企画の推進と実践を行う。そのため、学校司書と共に学校図書館の活用方法について研究し、方針を決め、各学級担任に読書活動を推奨していく。また、学校司書とは学校図書館の環境整備や校内体制を整えるために連携を取り、各学級には「図書の時間」と称する授業を週に1時間設定することで、週に1度は学級単位で学校図書館に赴くようにしていくことになる。地域から参加していただいている図書ボランティアの方々には、学校図書館の環境整備や読み聞かせを依頼し、主に低学年を対象にして取り組んでもらう。そして図書委員会の児童には、校内での各種活動に取り組ませ、全校児童の読書活動を牽引する立場にしていけることを目標にしている。

(2) 子どもや教員に対する支援

① 図書館の整備

- ・図書の配架と整備

環境整備の中で最も重要視しているのは、図書の配架と整備である。どこにどのような本が配架されているか（十進分類法）を、1年生から説明し、年度始めには各

クラスでオリエンテーションを行い、再確認しているので、本を探しやすい環境になっている。また、傷んだ本をそのままにしないという事を徹底し、破損した本は速やかに学校司書に伝え修理をする習慣を作っている。

・国語研究校

本校は国語の研究校であるため、詩歌・古典・ことわざなどは国語関係の本として、特別な書架に配置している。

・図書物流の活用

自校本で補えない時は、船橋市内の小中学校や公共図書館から本を借りている。

② 読書推進活動

・「言の葉タイム」

週 5 回朝 8 時 30 分～8 時 40 分の 10 分間で実施する。

年間を通して朝読書を行う時間として設定しているが、読書活動に関わらず国語に関する活動を行う時間帯でもある。学年や学級の実態に合わせて、スピーチ活動を行ったり、音読を行ったり、漢字の書き取り練習を行ったりしている。

・「図書の時間」

各学級週に 1 回、予備時間として各学年で週 1 回分、学校図書館で授業を実施する。

この時間は学校司書からのガイダンスや読み聞かせといった読書活動、貸し出し、課題図書の紹介、調べ学習の時間として活用する。週に 1 回、学級全員で赴くことで、返却延滞者の予防や、学級で借りる機会を増やす。また、定期的に学校図書館へ行くことで、学校図書館に親しむ機会にしている。

・「図書委員会の活動」

<貸し出し>

中間休み、昼休みの時間において貸し出し作業を行う。この時間には書架整理も行い、学校図書館の環境整備の役目も果たす。「図書の時間」以外で本を借りて来た児童にはスタンプカードを渡し、スタンプがたまると優先的に人気の本を借りることができる「予約カード」や、図書のカバーを切り抜いて作ったしおりが貰える特典を与える。

<秋の読書週間>

毎年 10 月～11 月頃の 1 か月間、「読書祭り」と呼称する期間を設け、活発な読書活動を行う。

(i) 読書マラソン

読書ページ数を記録し、目標数の達成を目指す。達成した児童には図書委員会の児童が作成する、著名な作品の図書をモチーフにしたしおりを渡す。また、たくさん読んでいる児童には賞状を渡す。

→学校司書が作成した賞状。なるべく多くの児童がもらえるように配慮している。

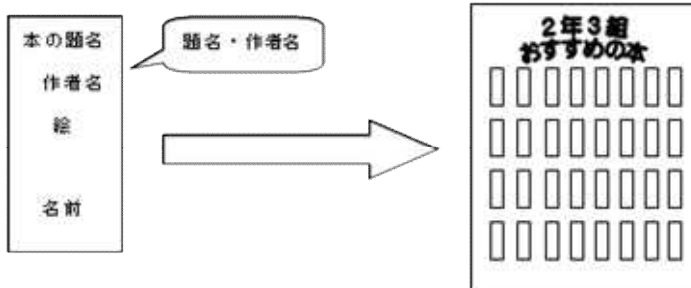


(ii) 学級の本紹介

全児童で短冊状の用紙に好きな本の紹介を書き、学級単位でラシヤ紙に貼り付けて掲示する。「読書祭り」終了後、短冊を切り取ってラミネート加工し、しおりにして児童に返却する。



←図書室前に全学級の本紹介を掲示している。
→掲示後、切り取ってしおりに加工したもの。
↓職員向けの作成の手順説明図。



(iii) 教職員による本紹介

全教員、一部の職員に本の紹介文をイラストと共に書いてもらい、年間通して図書室前に掲示する。紹介された本は図書室内の特別展示コーナーに紹介した教職員の名前と共に展示し、本に対する関心を高めさせている。



(iv) 図書委員児童の本紹介

読書祭りの時期に合わせて、委員会児童が紹介文を作り、図書室内に掲示する。紹介する本は全学年の発達段階に合うように担当を決め、考えながら選書を行わせる。

→図書番号を書くことで、探しやすくすると共に、NDC分類法の良さを感じさせる。壁に掲示する他、ラミネート加工することで、3枚のカードを組み合わせて自立する掲示物にしている。



<雨の日紙芝居>

「雨しばい」と呼称する。本校は休み時間での外遊びを推奨しているが、朝から天候が雨の場合、中間休みに学校図書館と図書館前廊下の2か所で実施する。図書委員会の児童がグループを組んで読み聞かせの練習を行い、放送連絡で自主的に集まった児童に対して紙芝居の読み聞かせを行う。年度途中の感想だが、集まる児童は主に低学年で、静かに姿勢を正し、楽しみながら聞いている光景が見られた。



<読み聞かせ放送>

放送委員会が行う昼の放送時に図書委員会の児童が読み聞かせを行う。グループ毎に担当月を決め、月に2回実施していく。「雨しばい」同様に読み聞かせの練習を行い、その際には図書主任が指導を入れる。放送時に必ず図書番号を知らせるようにして、貸し出しの意欲を高めさせていく。

(3) 学習等に関する支援

① 教科指導に関すること

・物流図書の活用

市内の公共図書館、小中学校での学校図書館支援サービスである図書物流で、学習において必要な調べ学習本が発生した際には、各施設からの貸し出しを受ける。同じタイトル、同じ種類の図書を大量に必要とする機会が多く、例年、各教員はこの支援サービスを多く利用している。また、教員だけではなく、児童も個人で貸し出しを受けている。

② 特別活動に関すること

・図書委員会への指導

図書委員会は図書主任（司書教諭）、教員、学校司書の三名が担当し、三名で毎年行っている委員会活動や、新たに始める委員会企画の内容を分担しながら活動を進めていく。

(4) 学校司書や公共図書館との連携

公共図書館からは主に学習で使用する本を借りている。本の種類や内容が分からない時は、学習のニーズに合った本を選書して貸し出しを行う。また、貸出期間や複本の貸出に制限があるが、学校側の要望に応じて柔軟な対応をしてもらい、連携を図っている。

4 成果と課題等

(1) 成果

*貸し出し冊数の向上

<平成27年度の月別の全校貸出冊数と累計数>

※8月は夏休み期間のため、1月以降は計算不能のため除外

月	4	5	6	7	9	10	11	12
冊数	3,974	5,452	7,532	4,294	7,285	11,858	9,643	5,972
累計	3,974	9,426	16,958	21,252	28,537	40,395	50,038	56,010

表の通り、「読書祭り」を実施した10月は月で1万冊を越えており、これは本校で貸出冊数を記録し始めた7年前から現在に至るまでにおいて初めてのことである。その後も3冊～5冊の貸出にしたことで、翌月も1万冊近くが貸し出された。長期休暇前や後は、授業日の関係で貸し出し冊数が減少するが、児童に「沢山借りて本を読む」という意識が根付いていることが考えられる。

*委員会活動による児童主体の読書活動

教員が企画を立案し、児童に身近な図書委員会の児童に運営を任せることで、児童の中で読書活動をより活発にしようとする気持ちを持たせることができた。読書することの良さを他の児童に伝えられるように、今年度は特に児童同士が関わり合えるような企画を増やしたことで、図書委員会の児童もそうではない児童も読書活動を進めようとする気持ちを高め合えることができた。

*授業における活用

今回、授業研究として第五学年で「ビブリオバトル」に取り組む際、学校図書館を主体に活用した。その際、教室よりも広い空間のため、班ごとに話し合う活動に向いていると感じた。また、すぐに資料が取り出せ、大きな作業机もあるため、本の紹介カード作りにも活用した。そのことから、多岐に渡って活動できる環境にあると考える。

(2) 課題

*読書の質を高めるための手立て


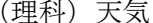



貸し出し冊数においては高い水準を持つ本校だが、高学年においても安易な内容の図書を好んだり、絵図の多い本を好んだりする児童が多く、難しいと思われる古典的な図書に親しむような児童を増やすことが難しかった。そのため、地道な声掛けや紹介活動、学習活動での図書活用で意欲を高めようとしてきた。中でも紹介活動が効果的であり、友達が紹介したことで興味を持つという場面が数多く見られた。更に読書の質を高めるためには、他の手段を再検討する必要があると考えられる。

*学習内容の質を高めるための手立て

多くの資料がある学校図書館だが、各学年の教科単元に適している調べ学習本がそろっているとは言い難い現状にある。特に、年代が古く、平成以前に刊行された本の内容は時代遅れで、発展した社会には適さない。そのため、各学年に「どのような資料があるといいか」という内容でアンケートを行った。アンケートの中には、どの時期にこういった内容の学習を行うのかという項目を設けた。この調査内容を基に、資料を必要とする時期に合わせて、学校司書が図書物流を活用し、必要な資料を集めるようにしていきたいと考えている。

下記は使用したアンケートの枠と、回答例である。

〔5学年〕読書を通して考えを深める

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(年間) ビブリオバトル・ 										
使い方の振り返り										
(理科) 天気 										
(国語) 新聞の作り方 (国語) 白神山地・ブナの森・意見文										
(理科) メダカ 										
(国語) 短歌・俳句										
(国語) 宮沢賢治 										
(社会) 情報・工業 										

上記のアンケートを全学年で実施し、手書きで記入してもらったものを図書主任が清書した。教科内容についての調査は学級担任を兼任する図書主任が行い、図書の購入や図書物流については学校司書が担当するという、図書主任と学校司書の役割分担と連携を行った一例でもある。

第5学年3組 国語科学習指導案

1 単元名 お気に入りの本でミニ・ビブリオバトルをしよう
～好きな本を見つけ、特徴や魅力を味わいながら紹介し合う～

2 学習材 図書的时间
「図書すいせん会」を開こう
学校図書館蔵書

3 単元の目標

(1) 本を楽しみながら読み、紹介活動をしたり、聞いたりしようとする。

〈国語への関心・意欲・態度〉

(2) 好きな本を選んだり、本を読み比べて好きな登場人物や場面を選んだりすることができる。

〈読むこと カ〉

(3) 本を読んで感じたことを紹介したり、聞いた内容から自分の考えを深めたりすることができる。

〈読むこと オ〉

(4) 好きな本の特徴や魅力を味わうために本の紹介をしたり、聞いたりすることができる。

〈話すこと・聞くこと エ〉

4 単元について

(1) 本単元で行う言語活動

本単元は、ビブリオバトルで本の紹介を行ったり、聞いたりするという言語活動を行う。これは、「C 読むこと」における(2)言語活動例「エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。」を踏まえている。

読書は、人間の知識や経験を増やし、心を豊かにし、成長させ、生きる力をはぐくむはたらきを備えることができる活動である。また高学年における読書指導の目標である「読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」を踏まえ、本単元では読書習慣の定着や、読書能力の向上を図る。また、友達の紹介を聞いて自分の考えを広げたり、深めたりし、聞く相手に魅力的な本だと感じさせるために本の魅力的な部分を抽出したり、話し方を考えたりすることによって、児童の言語能力を養いたい。

この単元は、5年生の国語科の指導内容を踏まえながら通年で行っていく。そのため、国語科の授業に加え、本校において週1時間で設定されている「図書的时间」を利用し、展開していく。

第一次では、班毎に行う『プチ・ビブリオバトル』と全体で行う『ミニ・ビブリオバトル』を紹介する。年間通して活動していくことを知らせ、読書意欲を高めさせる。そして『「わが町ベスト・スリー」を決めよう』、『大造じいさんとがん』では本の紹介活動として、ポスターや帯作りを行う。いずれも伝えたいことを効果的に伝える力を身に付けさせることをねらいとする。

第二次からは、毎週の図書的时间で『プチ・ビブリオバトル』を繰り返し行う。その際、NDC（日本十進分類法）毎にお気に入りの本を選ぶ『図書ビンゴ』を行うことで、触れる本のジャンルの幅を広げ

る。『俳句・短歌を作ろう』では句会を行い、児童同士で魅力的な短歌を選び合う活動を通して、『ミニ・ビブリオバトル』の際に行われる投票活動の抵抗を減らしたい。『「図書すいせん会」を開こう』では、「カリスマ書店員を目指そう」をめあてにポップ作りを行い、魅力的な紹介を行う力を高めていく。

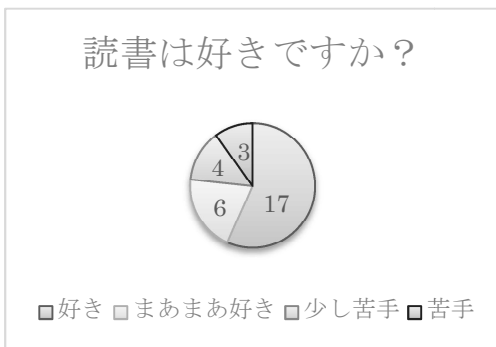
第三次では、冬休み明けに『ミニ・ビブリオバトル』を実施し、それまでの活動で洗練された紹介活動を行うことで、本と読書の良さを実感できるようにしたい。また、事前にデモンストレーションとして、T1（学級担任）、T2（学校司書）、T3（教務主任）、T4（校長）による『ミニ・ビブリオバトル』を行い、本時の流れの確認をしつつ、魅力的な本紹介のコツについて知らせていきたい。

（２）児童の実態に基づいた本単元でつきたい力

本単元は、好きな本を紹介したり、聞いたりする活動を通して、主に「C 読むこと」における（２）言語活動例「エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。」に関する、知識や技能を活用できる能力を身に付けさせようとしている。

本学年の児童は、今年度まで、毎年「図書の時間」として、本の貸し出しや学校図書館の利用方法を学び、様々な教科における学習活動で図書に親しんできた。貸し出し冊数も市内の他校に比べて多く、約1.5倍の貸出冊数になる。そのため読書を好む児童は多いと言えるが、一方では好まない児童も存在する。

以下は、本時に入る前に行ったアンケートの結果である。コメントは、学校司書と共に考察を重ね、まとめた内容になる。



<なぜそう思うのですか？>

《好き・まあまあ好き》

- ・現実では有り得ないことを体験できるような気がする。
- ・文章から物語をイメージすることが面白い。

《少し苦手・苦手》

- ・たくさんの文字を読むことが辛い。
- ・話を理解できない。

《好き・まあまあ好き》と答えた児童は23人で、想像力があり、文章表現をイメージしながら物語を考察する力を持っていることが分かった。反対に、《まあまあ苦手・苦手》と答えた児童は7人で、普段からイラスト付きの本や、迷路やクイズといったゲーム感覚で読むことができる本を選んでいった。つまり、頭の中で文章をイメージ化することを苦手とする児童が、読書に苦手意識を持っていることが分かった。

ただし、<自分が思う読書の良さを述べてください。>という設問に対し、苦手だと答えた児童も、読書には楽しみながら知識を深められるといった良さについて考え、答えていた。これにより読書にはメリットがあるということ、全ての児童が理解していることを踏まえることができた。

本単元では、どの児童も主体的に読書活動に携わることができるよう、『ビブリオバトル（書評合戦）』を行う。

『ビブリオバトル』は、本来中学生以上から大人が実践するものであり、小学生では話す力や聞く力が足りず、実施しにくい読書活動だと考える。

その手立てとして、『ビブリオバトル』のルールを簡易化した『プチ・ビブリオバトル』を繰り返し行うことで、積極的に取り組める素地を作り、本時においても従来の『ビブリオバトル』より発表・交流時間を短くした『ミニ・ビブリオバトル』を実施していくことにした。

上記の手立ての他には、教員によるビブリオバトルや大会の様子を映した動画を見せることで、魅力的な紹介のコツを考えさせていく。また、『ビブリオバトル』の関連図書を教室に置き、本の選び方や紹介の仕方を自主的に学ぶ環境を作り、ルールについてまとめた掲示物を掲示することで、身近な活動にしていきたい。

『ビブリオバトル』では、好きな本を自由に選ばせることをルールの一つとして挙げられるが、学校教育活動の中で行うため、基本的に学校図書館の蔵書から選ばせる。児童によっては個人で所有する本を使いたいと考えることが予想されるため、学校司書と学級担任で内容が紹介する上で不適切ではないかを確認してから許可を出す方法を取りたい。

（３）継続的な言語活動

本校の児童は毎年「図書の時間」と呼ばれる授業を週１時間で取り組んでおり、今年度も継続することで読書活動を行う機会を保障する。また、朝の会の後に設定している「言の葉タイム」で読書の時間を設けたり、空き時間には積極的に読書に取り組むよう指導したりしていく。また、朝の会の時間において「スクラップ新聞スピーチ」を行い、スピーチ能力を養っていく。

その他、連絡帳に「日記短歌」を書いたり、「二割俳句ゲーム」を行ったりするといった言語活動を行うことで、伝えたい内容を短い言葉で効果的に表現する力を育てて行く。

毎年引き継いで行っている読書活動がある一方で、上記のように読書を好まない児童も存在する。そのような児童には、安易な本から勧め、段階を踏んで難易度を上げ、読解力を身に付けさせていくことで、読書に取り組める素地を身に付けさせる。また、性格や趣味嗜好から相性の良い本を薦めたり、一緒に選んだりするを通して、読書に親しむ機会を持たせていく。『プチ・ビブリオバトル』を実践していく際には、読書に対する関心の高い児童と関心の低い児童のバランスを考慮しながら班分けしていくことで、話し合い活動を活発化させたい。

また、１年生から自分用の国語辞書を机の横に掛けておく習慣が備わっているため、本を読んでいてわからない単語が出てきた際には積極的に調べるよう指導することで、難しい本に挑戦する力を育てていく。

そして、通年を通して『プチ・ビブリオバトル』を行う。『プチ・ビブリオバトル』とは、＜①図書の時間中に好きな本を選ぶ。 ②お気に入りの場面や登場人物を選び、アピールポイントを考え、発表内容の準備をする。 ③班に分かれて一人１分間の紹介活動を行う。 ④各発表後、１分間でディスカッションをする。＞という、『ビブリオバトル』を簡易化した内容になっている。この時、学級担任と学校司書が人数の足りない班に入って紹介活動を行うことで、児童たちに細やかな支援を行えるようにしていきたいと思う。

5 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	話す・聞く能力
・本を楽しみながら読み、紹介活動をしたり、聞いたりしようとする。	・本を読み比べ、好きな登場人物や場面を選んでいる。〈カ〉 ・本を読んで感じたことを紹介したり、聞いた内容から自分の考えを深めたりしている。〈オ〉	・好きな本の特徴や魅力を味わうために本の紹介をしたり、聞いたりしている。〈エ〉

6 指導計画（国語の時間 全17時間 言の葉タイム+図書時間）

時	主な学習活動	指導上の留意点（○）と評価（※）
事前 の 葉	○学校図書館で選んだ本を読む。 ・『プチ・ビブリオバトル』や本時の『ミニ・ビブリオバトル』において紹介したい、紹介された本を読む時間にする。	○好きな本を選ぶことができない児童には、学級担任や学校司書がその児童の性格や趣味嗜好を考慮しながら選ぶ手助けをする。 ※本を楽しみながら読み、紹介活動をしたり、聞いたりしようとしている。 〔関心（観察）〕
第 一 次	1 ○学習のめあてを持つ。 ・『ミニ・ビブリオバトル』を行うことを知る。	○最初のため、紹介の助けとなるポスターを用意することを知らせる。
	お気に入りの本でミニ・ビブリオバトルをしよう	
	『ミニ・ビブリオバトル』をしてみよう	
	2 ○学校図書館へ行き、お気に入りの本を探し、読み込む。	○学校司書と共に選書する児童の支援を行う。
	3 ○紹介活動を行うために、魅力的だと感じる箇所を見つけたり、登場人物を紹介したりするポスターを作る。	○他のポスターを参考に、魅力的な部分を抽出させ、より魅力的に紹介するために要点をまとめさせる。
	4 ○作成したポスターを班内で紹介し合い、良い点や改善点について話し合う。	○話し合いの後には、ポスターを作り直す時間を保障する。
5 ○作成したポスターをもとに『ミニ・ビブリオバトル』を行う。 ・紹介時間は1分間にする。	○できるだけポスターや本を見ないで紹介するよう助言する。 ○紹介活動後、ポスターを学校図書館に	

			『プチ・ビブリオバトル』を行う。ビブリオバトルの動画や学級担任と学校司書の実演を見る。	<p>掲示することで、今後の活動への意欲を高める。</p> <p>※好きな本を選んだり、本を読み比べて好きな登場人物や場面を選んだりしている。</p> <p>〔読む（発表、ワークシート）〕</p>
第二 次		『プチ・ビブリオバトル』をしよう		
	7	○学習のめあてを持つ。 ・『プチ・ビブリオバトル』を行うことを知る。		○『プチ・ビブリオバトル』と公式のルールが異なることを知らせる。
	8	○読書アンケートを行う。		○読書アンケートの結果から、読書班を決める。 ○班長、関心の高い者、関心の低い者の相性を考慮しつつ、ローテーションでメンバーを変えていく。
	9	○図書ビンゴを行う。 ・学校図書館のNDCを確認する。 ・棚毎にどのような傾向の本があるのか観察する。		○NDC毎に好きな本を探させることで、選書能力を高める。
	10	○『プチ・ビブリオバトル』を行う。 ・毎週の図書の時間で繰り返し行う。		○学級担任と学校司書が人数の足りない班に入り、指導する。 ※好きな本の特徴や魅力を味わうために本の紹介をしたり、聞いたりしている。 〔話すこと・聞くこと（発表）〕
	11	○『『図書すいせん会』を開こう』で、ポップ作りを行う。		○作ったポップを学校図書館に掲示することを知らせ、意欲を高めさせる。 ○教師モデルや書店で実際に展示されている画像を参考にさせる。

<p>第三次</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>お気に入りの本で「ミニ・ビブリオバトル」をしよう</p> </div> <p>12 ○『ミニ・ビブリオバトル』のルールを確認し、お気に入りの本を選んだり、読んだりする。</p> <p>13 ○教員による『ミニ・ビブリオバトル』を見て、実際の流れを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本から魅力的な部分を見つける方法や、表現の仕方について考えさせる。 ・実際に投票を行い、「読みたいと思った本」の紹介を選ぶ。 </p> <p>14 ○紹介する本の要点を考え、関連する写真や挿絵、キーワードをまとめたカードを作る。</p> <p>15 ○『ミニ・ビブリオバトル』を行い、</p> <p>16 「チャンプ本」や「評価大賞」を選出する。</p> <p>本時</p> <p>17 ○二回目読書アンケートを行い、学習を振り返る。</p>	<p>『プチ・ビブリオバトル』を行う。ビブリオバトルの動画や学級担任と学校司書の実演を見る。</p>	<p>○チャンプ本等の受賞者は表彰することを知らせ、参加する意欲を高めさせる。</p> <p>○読み深めてきたものを使用することが望ましいため、『プチ・ビブリオバトル』や紹介活動で使用してきた本、友達が紹介していて魅力的に感じた本から選ぶように助言する。</p> <p>○T1 学級担任、T2 学校司書、T3 教務主任、T4 校長の四人体制で行うことで、参加意欲を高めさせる。</p> <p>○教師モデルを見せることで、本時の流れを把握させ、投票の観点を知らせる。</p> <p>○投票する際の抵抗感を減らすことができるようにする。</p> <p>○八つ切りの画用紙を用意し、一番伝えたいポイントについてまとめさせる。</p> <p>○T1 学級担任、T2 学校司書、T3 教務主任、T4 校長が空いている班に入る。 ※本を読んで感じたことを紹介したり、聞いた内容から自分の考えを深めたりしている。 〔読む（発表・評価カード）〕</p> <p>○前回のアンケートと同じ項目と、これまでの活動を経て成長した部分や身に付いた点について自覚できるような設問を加える。</p> <p>○今後も楽しく読書活動が行えるよう、声掛けをする。</p>
------------	--	--	---

7 本時の活動（15・16／17）

指導者 3組 千種 萌

（1）本時の目標

- ・本を読んで感じたことを紹介したり、聞いた内容から自分の考えを深めたりすることができる。

（2）本時のねらいと手立て

本時は、『ミニ・ビブリオバトル』による紹介活動を通して、お気に入りの本の魅力を伝えたり、評価したりすることがねらいである。

手立ては、本時までの間に簡易的なルールで行う『プチ・ビブリオバトル』の紹介活動を繰り返し行い、発表者は参加者に対してより効果的に伝わるよう工夫しながら発表することができるようにする。そして継続的に学級担任と学校司書のビブリオバトルや、関連動画を見せることで、具体的なイメージを持たせる。

発表時は、発表内容の要点を押さえた本の紹介カードを用意し、伝えたいことを工夫しながら伝えられるようにし、聞く側にもより伝わりやすくする。カードは必要以上に凝った装飾はさせず、シンプルに作ることでカードの出来の良さが評価に影響しないようにする。

参加者は評価カードを用いながら、発表者の発表を見たり、聞いたりする観点を絞り、発表の聞き方を考えながら参加できるようにする。

長い時間での発表になるため、集中力が続くように適宜評価カードの記入時間を設けて区切りをつけたり、テンポよく行うために制限時間をタイマーで表示したりする支援をしていく。

（3）展開

時配	学習活動と内容	指導上の留意点（○）と評価（※）
5	1. 本時のめあてを知る。	○『ミニ・ビブリオバトル』のルールを簡単に確認し、本時の流れについて知らせる。
お気に入りの本でミニ・ビブリオバトルをしよう		
25	2. 『プチ・ビブリオバトル』を行う。 ・発表の制限時間は2分間。 ・各自ディスカッションは1分間。 ・5分間で話し合い、代表者を決める。 ・終了後、早めの休み時間を取る。	○『プチ・ビブリオバトル』を行わせ、班毎に発表代表者を決めさせる。 ○人数の少ない班に T1 学級担任、T2 学校司書、T3 教務主任、T4 校長が入って支援する。 ○紹介カードを使って紹介する。
40	3. 『ミニ・ビブリオバトル』を行う。 ・発表の仕方は『プチ・ビブリオバトル』と同じ。 ・評価カード記入時間は2分間。 ・各代表発表後、全体から「チャンプ本」を選んで投票を行う。	○質問が出なかった場合、発表者のアピール時間にする。 ○発表ごとに評価カードを記入して区切りをつけることで、集中して聞くことができるようにする。 ○発表者の態度や内容について評価項目を設け、「どの本が一番読みたくなったか」を基準に「チャンプ本」を選ぶことを知らせる。

10	4. 集計する。 ・投票内容を集計している間、紹介された本や紹介した本の読書時間にする。	○評価カード記入中、記入が終わった児童に対して、紹介された本を読むよう勧める。 ※本を読んで感じたことを紹介したり、聞いた内容から自分の考えを深めたりしている。 〔読む（発表・評価カード）〕
5	5. 受賞者の発表を行う。	○集計は学級担任と学校司書が行い、「チャンプ本」、「評価大賞」、「学級担任 MVP」、「学校司書 MVP」を選出する。
5	6. 本時のまとめ。 ・『ミニ・ビブリオバトル』をしてみて良かったことやこれからしてみたいことなどを全体で話し合う。	○学級担任、学校司書からこれまでの活動を踏まえた講評を行い、受賞者を発表する。後日、賞状を渡すことを知らせる。 ○紹介されたお気に入りの本は、しばらく教室においておくことを知らせる。

8 成果と課題

(1) 成果

・読書冊数の増加

5月に、「一ヶ月に読む本の冊数は何冊か。」というアンケートを行ったところ、学級平均で24冊だった。1月の本時の授業を展開する前日に、再び同じアンケートを行ったところ、学級平均で33冊になっていた。5月から1月で、読書冊数が平均9冊も増加したことになる。様々な読書活動を行った成果の一つだと考える。

・漢字50問テストの成績の向上

紹介活動を行う上で、質の高い文学作品や、シリーズ本といった、高学年として相応しい本を読むように薦めてきた。そうする中、「内容が理解できないから読めない」という声もあったが、分からない言葉はすぐに辞書を使って調べさせたり、友達同士での紹介活動を行ったりしたことで、難しい本にも挑戦するようになった。結果、漢字50問テストの成績が、学級全体で向上した。生活の様子を見ていると、語彙力が高まっていると考える。

・読書好きの増加

本指導案の「4 単元について」に述べたが、『ビブリオバトル』に取り組む前に実施した「読書は好きですか」のアンケートにおいて、読書が好きだと答えた児童は24名だった。しかし、本時を終えた後に実施したアンケートでは、読書が好きだと答えた児童は29名に増えていた。具体的な内訳は以下の通りである。

	好き	まあまあ好き	少し苦手	苦手
実施前（6月）	17名	6名	4名	3名
実施後（1月）	18名	11名	2名	0名

苦手だと答える児童が0名になったことは、大きな成果である。読書が好きと回答した児童

たちは、以下のように理由を述べていた。

- ・おもしろい本がいっぱいあるし、紹介した本を読んでもらえるとうれしい。
- ・本を読むと、世界が広がり、また、単語の意味が分かり、知識が増えるから。
- ・ビブリオバトルをやっていく内に好きになった。
- ・ビブリオバトルをして、本と親しみやすくなり、同じシリーズしか読んでいなかったが、新しいシリーズを知ることができた。

上記の通り、紹介活動は児童相互に良い影響を与えていたことが分かった。また、「自分が思う読書の良さ」についても、記述が前回から変わった児童の姿が見られた。

- ・漢字が覚えられる。
- ・視野が広がる。
- ・集中力がつく。
- ・言葉の種類が増える。
- ・色々な立場になって考えられる。

このように、読書は学力向上に良い影響があるということを自覚する回答が多く見られた。特に、「漢字が覚えられる。」という回答が多く、実際、前述の漢字50問テストで成果が上がっている。

反対に、「少し苦手」と答えた児童は、2名とも同様に、『小さい文字が読みにくい。』と回答していた。つまり、読み辛い文章を否定的に捉えていた。「自分が思う読書の良さ」においても、他の回答者と同様の意見だったため、読書自体は良いものだと思っ受け入れていると考える。

以上、3点の成果について述べてきた。以下には、本時の実施前と実施後の変化について一覧にして述べる。

	読書冊数		漢字テスト		読書は好きですか？
5月	24冊	5月	64点	6月	好き： 24名
1月	33冊	12月	87点	1月	好き： 29名
変化	+9冊	変化	+23点	変化	+5名

一年通して実施してきた『ビブリオバトル』だが、児童達は楽しんで取り組み、「もっと時間を延ばしたい」「もっとやりたい」といった声が上がっていた。そして、「楽しかったな」だけでなく、読書活動や学力向上における成果が挙がり、良い結果が見られたことを嬉しく思う。児童達には、今後も楽しく読書活動に取り組んでいってもらいたい。

(2) 課題

・ビブリオバトルではなくブックトークに

ご参観いただいた講師の方から、「ビブリオバトルではなくブックトークになっていた。」との指摘を受けた。確かに、児童達は「この本が好きだから紹介する」という姿勢ではなく、「どうやったら評価をもらえるか」に観点を置いた紹介活動を行っていた。そのため、「チャンプ本」を選ぶ際も、紹介の仕方が上手な子が選ばれていた。ただ、続けて「正しいビブリオバトルを行うことはとても難しい」「ブックトークとしては成功」というご助言もいただき、上記にあるような成果も挙がっているため、紹介活動として一年間取り組んだことは、「(1) 成果」の欄にも述べたように、良かったと思っている。

・2時間展開ではなく1時間で

今回は全児童の活動の場を保障するために、2時間展開にした。しかし、1時間の授業で出来るビブリオバトルを考案することが求められるとの指摘をいただいた。1時間でも全員が主体的に活動できるような活動内容を考えることが必要である。

・話す力の向上

年間通して、話す力を高めるために、朝のスピーチ活動を行ったり、話形を考えたり、紹介活動に教員が参加したりしてきたが、児童達の話す力はあまり向上しなかった。話す力を高めることが主なねらいの活動ではないにしろ、紹介活動を行っている以上、そちらの成果もあって欲しかった。もっと良い方法については、自身の今後の課題である。

9 資料

本時の学習において児童が使用した図書の一覧 ※網掛けは代表者の紹介図書	
パイレーツ・スクール	インサイドヘッド
サーティナイン・クルーズ(21)アトランティスの謎	エパミナダス(1) 2名
妖怪アパートの幽雅な日常(1)	オオカミ少年ドルフィ
らくだい魔女の出会いの物語	宇宙スパイ ウサギ大作戦
動物と話せる少女リリアーネ	おはなしのロウソク(1)
カールじいさんの空飛ぶ家	学校クエスト ぼくたちの罪
「のび太」という生きかた	こころ 坊ちゃん
名探偵コナン 漆黒の追跡者	黒子のバスケ Replace キセキの学園祭
電車で行こう! 60円で関東一周	黒子のバスケ Replace
空想科学読本□	勇者ライと3つの扉
ガフルの勇者たち(14) 神木に迫る悪の炎	ダメダメでも夢が叶う
輝けユーフォニアム(2) 北宇治高校吹奏楽部のいちばん暑い夏	学研まんが エネルギーのひみつ
雨ふる本屋	もっと泣いちゃいそうだよ
パディントンとテレビ	ビーストクエスト(1)
モンスターズユニバーシティ 2名	

お気に入りの本でミニ・ビブリオバトルをしよう

～本を通じて人を知り、人を通じて本を知る～

「読みたい本」はどの紹介？

<ルール>

- 1 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- 2 班に分かれ、順番に1人2分間で発表、1分間のディスカッションを行う、『プチ・ビブリオバトル』に取り組む。
- 3 全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準にした代表決めを行う。
- 4 各班の代表者が全体で『ミニ・ビブリオバトル』を行う。
- 5 発表の流れは『プチ・ビブリオバトル』に加え、2分間で評価カードの記入を行う。
- 6 発表終了後、投票を行い、「チャンプ本」を決める。

<評価の仕方>

話し方	・話し方に強弱がついていたり、身ぶり手ぶりがついていたりしているか。
工夫されているか	・登場人物や物語を何かにたとえたり、短い言葉にまとめたキャッチコピーを使いながら紹介したりしている。
興味を持ったか	・「話を詳しく知りたい」「紹介の中で気になる登場人物ができた」といった気になるポイントがある。
時間	制限時間2分間にちょうど収まっている。

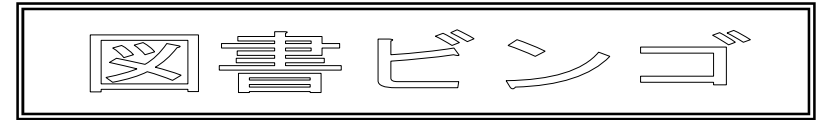
どの本が一番読みたくなったか？

5年 組 名前： _____

ミニ・ビブリオバトルをしよう(評価カード)

組 名前

	名前	話し方	工夫されているか	興味を持っただか	時間	合計 12点 満点	印象に残ったところ
1		3・2・1	3・2・1	3・2・1	3・2・1		
2		3・2・1	3・2・1	3・2・1	3・2・1		
3		3・2・1	3・2・1	3・2・1	3・2・1		
4		3・2・1	3・2・1	3・2・1	3・2・1		
5		3・2・1	3・2・1	3・2・1	3・2・1		
6		3・2・1	3・2・1	3・2・1	3・2・1		
チャン プ 本							
選ん だ理 由							



- NDC（日本十進分類法）ごとに、お気に入りの本を見つけよう！
- 毎週のプチ・ビブリオバトルで紹介しよう！

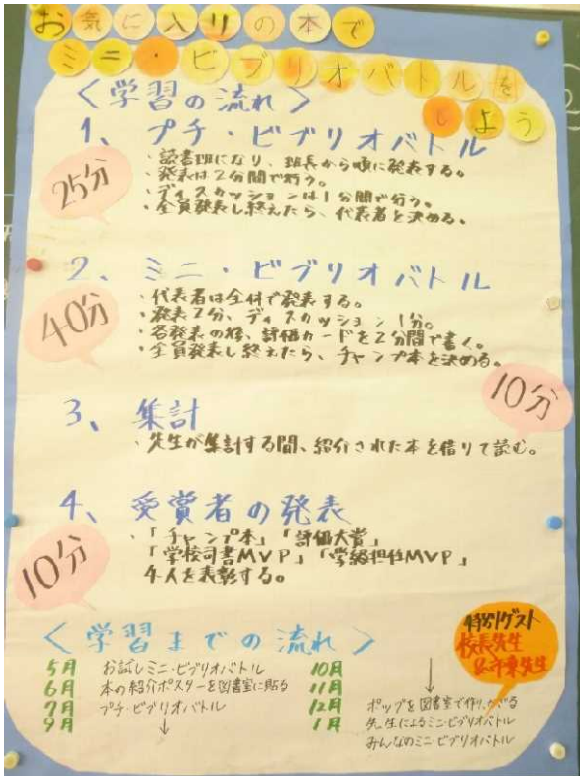


0 (辞典)・1 (道徳)・2 (歴史)	3 (社会)	4 (理科・算数)
5 (工業・機械・家庭科)	6 (仕事・産業・農業)	7 (図工・体育・あそび)
8 (言葉・言語)	9 (物語・詩・絵本)	9 (物語・詩・絵本)

年 組 名前：

10 写真資料

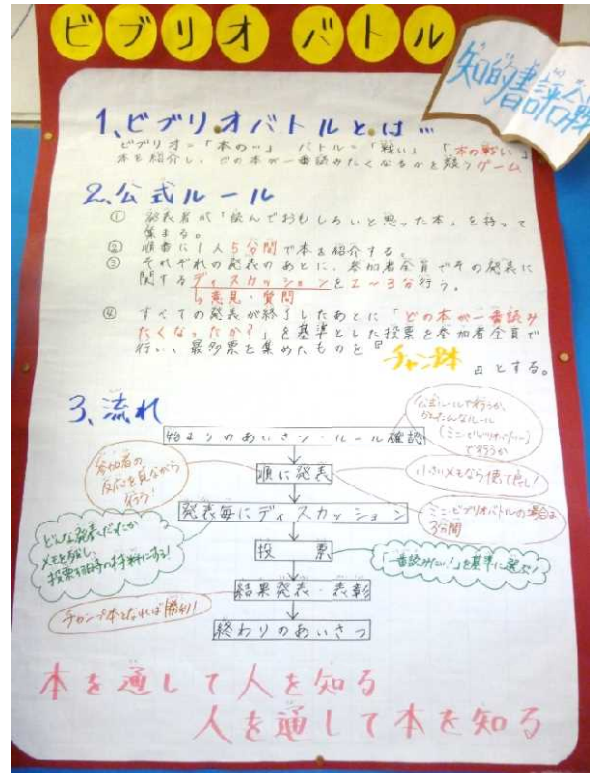
①学習の流れ



③児童の本の紹介ポップ



②公式ルール

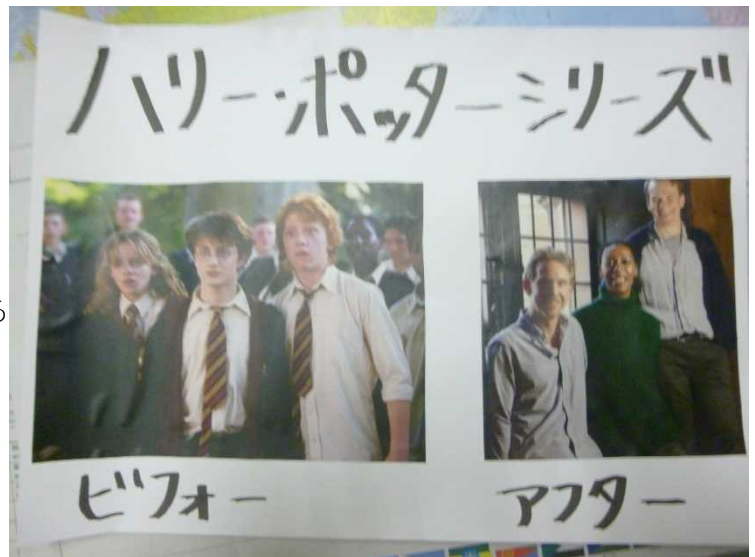


④児童の本の紹介ポップ



⑤本の紹介カード (教師モデル)

- ・写真2枚まで (比較できるように)
- ・筆記用具は黒マジックのみ使用する
- ・八つ切り1枚
- ・写真はPC室で印刷させる
- ・イラストは描かず、シンプルに仕上げる (あくまでも本を紹介する力で勝負するため)



⑥本時の活動の様子



←↑「プチ・ビブリオバトル」の様子。班単位でビブリオバトルを行っている。時間管理は、体育用のタイマーを使い、アラームを鳴らすことで知らせた。

左上は教務主任、右は学校司書が児童と共に紹介活動を行っている様子である。他、校長と学級担任が参加した。学級担任は各テーブルを回りながら机間指導を行い、時間になったら担当班に赴いて紹介した。



↑「ミニ・ビブリオバトル」の様子。班で選ばれた代表者が、全体の前で発表する。紹介カードをボードの前に置き、本を片手に紹介している。学級担任は代表者に指示を出し、学校司書は時間管理の指示を出した。

↑「受賞者の発表」の様子。前方にホワイトボードを設置してあり、そこに各賞の受賞者の名前を板書した。また、ボードには学習の流れをまとめた掲示物も掲示しておいてあり、児童が確認できるようにしてあった。